



10月園だより

2023年10月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

日中の外遊びが気持ちの良い季節になりました。

先週末は幼児組運動会にご参加いただき、ありがとうございました。体を動かす楽しみを伝え、みんなが楽しいワクワクの運動会にしよう、と子どもたちと話し合ってきました。当日を迎え、ちょっぴり緊張しながらもお家の方と嬉しそうに参加している子どもたち、お友だちと励まし合って競技に参加している子どもたちをみて、本当に良い体験になったのではないかと嬉しく思います。これまでの練習風景を見ていた乳児さんは「はやくおにいさん、おねえさんになりたいな」と憧れを抱き、沢山応援してくれました。保育園は行事ひとつとってもみんなが影響し合い、育ち合う場なのですね。そんな育ち合いの様子を今後も保護者さんに情報共有し、子どもたちの成長の様子を喜び合えたらと思います。

10月は、年度の折り返しとなります。前期の保育の見直しを行い、後半の保育も充実したものとなるよう計画して参ります。

☆10月の予定☆

- 3日(火) 避難訓練・0歳児健診
 - 4日(水) 乳児身体計測
 - 5日(木) 幼児身体計測
 - 13日(金) 3歳秋の遠足
 - 17日(火) ふれあい移動水族館
 - 20日(金) 4歳秋の遠足
 - 24日(火) 世界を知ろうウクライナ(幼児組)
0歳児健診
 - 25日(水) 5園交流(ゆり組)
 - 27日(金) 5歳秋の遠足
- ※2・16・30日の各月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆11月の主な予定☆

- 1日(水) 避難訓練・乳児身体計測
 - 2日(木) 幼児身体計測
 - 8日(水) 歯科健診
 - 9日(木) 0歳児健診
 - 17日(金) サッカー教室(ゆり組)
 - 24日(金) 5園交流(ゆり組)
 - 28日(火) 0歳児健診
- ※13・27日の各月曜日、英語であそぼう(幼児組)



☆お知らせ・お願い☆

○10/17(火)に『ふれあい移動水族館』を開催します。この機会に水の中の生き物への興味関心を育み、自然環境の大切さや水を大事に使うことを学べばと思います。

○24日(火)に世界を知ろう・ウクライナ便を行います。その日は給食もウクライナ料理になります。対象は幼児組です。

○25日(水)は5園交流です。ゆり組と近隣の保育園の年長児が交流します。交流を通して社会性や関わり方を知るきっかけとなり、また就学へ向けても良い機会にしていきたいと思っております。3月まで全5回を予定しています。

○衣替えの季節となりました。夏の間に大きくなった子どもたち。秋冬物が小さくなっているかもしれませんね。衣替えの際には、ぜひお子さんにお手伝いをさせてあげてください。自分の成長を感じ、物を大切に感謝する気持ちを育てていけたらいいですね。

○勤務時間の変更、それにより基本的保育時間に変更が生じる場合は担任または事務所までお知らせください。

読み聞かせは想像力を高める

主婦の友社 0~3才 個性を伸ばす 能力を育てる
東京大学名誉教授 汐見 稔幸

絵本の世界は想像力の世界

話を聞かせたり、好きな絵本を何度も読んであげるの、想像力を豊かにします。

2才児は、想像の世界を楽しむことが大好きです。見立て遊びもそうですが、絵本やお話で体験する世界はいつそうイマジネーションをふくらませることができます。

1才のころは、動物や乗り物などが大きくはっきりと描かれた、物の名前を確認するような絵本が好きでしたが、このころになるとストーリーのあるものを楽しむことができます。

無理じいはしないで

絵本を読んであげようとしても、全く興味を示さない子もいます。これは一人一人の個性なので、動き回って遊びたい子を無理に押さえつけて本に親しませる必要はありません。そんなことをしても何も利するところはありませんから。

小さいときから本に親しむのが理想だからという、そうでない子はダメな子というように考える親が多いのは残念なことです。

本の問題に限りませんが、子どもの感性はそれぞれ個性的であってよいのです。こういうものに感動すべきだなどと、大人がかかってに決めつけないようにしましょう。

ただし、いまは興味がなくても、ずっとそうとは限りませんから、おりにふれて本の楽しさを紹介してやるとよいと思います。

寝る前に本を読んでもらうのはだれでも大好きです。



どんな本がいいのかな

2才児はこれくらいと決めつけず、その子が興味を示すものならなんでもいいと思います。絵本体験は個人差が大きいので、「こんなのは小さい子の本よ」などと言って心を傷つけないように。

恐竜の本ばかり見る子もいるし、乗り物一辺倒の子もいますが、たいていは特別のお気に入りがあり、毎日「これ読んで」と持ってきます。そのときは「またこれなの？」などと言わずに、気持ちを込めて読んであげましょう。子どもはとくに一字一句を残さず覚えていて、その繰り返しを楽しんでいるのです。

ほんの一握りの割合で字に興味を持つ子も

ほんの数パーセントですが、この段階で字に興味を覚える子も出てきます。

そのときは、まだ早すぎると無視する必要はありませんから、知りたがったら教えてあげましょう。ただし、親のほうが無心になってしまったり、子どもに負担をかけないようにしたいものです。

早く興味を持ったからといって、このあともずっと早期に才能を伸ばしていくとは限りません。

本を読んでいても、すぐ「これは何ていう字だっけ？」などと聞いてばかりいると、子どもは本を読んでもらうことをうれしく感じなくなってしまふおそれがあります。本の読み聞かせの目的は字を覚えることではありません。先々に字に興味を持つ準備の意味ももちろんありますが、それよりも、お話の想像の世界をお母さんやお父さんといっしょに生きてみたり、自分の知っていることを何度も確認して、知ることに喜びを広げることが目的なのです。